

持ち奇った。

大会では八つの班に分かれて代表句を選び、東西対決を繰り広げた。句を手にした法被姿の菊舎顕彰会会員が土俵の上を一周し、行司の「はっけよい、のこつた」のかけ声で、土俵を囲む児童が東西を表す赤、青いずれかのうちわを掲げて勝敗を決めた。



勝敗を決める赤、青のうちわを掲げる子どもたち=18日、下関市豊北町滝部

「はっけよい!

自慢の句競う

豊北小が俳句相撲大会

下関市豊北町滝部の豊北小学校児童による俳句相撲大会新着場所が18日、近くの市豊北歴史民俗資料館・太翔館であり、5年生35人が土俵の上で新年にちなんだ句の出来栄えを競った。

豊北町は江戸時代の旅する女性文人、田上菊舎(1753~1826年の生誕地で、俳句が盛んな土地

大会は20年以上前に田耕小で始まり、町内の小学校が統廃合された後も豊北小が継承し、毎年開いている。行司を務めた同顕彰会の古川裕三会長(46)は「菊舎という素晴らしい人が郷士にいたことを伝え、日本の伝統文化を子どもたちに引き継いでいきたい」と話した。(久岡照代)

職員が手続き怠りマイナポイント失効

岩国市が賠償へ

西国行は8月アントラーブ。元の菊舎顕彰会を招いて俳句を学び、冬休みに「初日の出」「初笑い」「すごい」「すじろく」のお題で句をつくって